

地球通信

KOKUSAI KOTOBA GAKUIN
学校法人 国際ことば学院

学校法人 国際ことば学院 法人本部事務局
〒422-8076 静岡市駿河区八幡3-2-12
TEL:054-286-0788 FAX:054-260-7836
<http://www.kotoba.ac.jp>



本年も地域の皆様に愛される学校であり続けるよう、国際ことば学院一同努力してまいります。各校の校長より新年のご挨拶を申し上げます。

謹賀新年

今年も無事に新年を迎えることができました。皆様に厚く感謝申し上げます。

正月早々重い話のように聞こえますが、皆さんの中に同感くださる方もいらっしゃるかと思います。それは、人生の歩き方、身の処し方についてです。私は現在、理事長の立場、専門学校の校長の立場、母親の立場、おばちゃんの立場、友人に対しては友としての立場、72歳という高齢者の立場、そしてすべての肩書や社会身分を脱ぎ捨てれば一人の日本人、一人の（それでも）女性としての立場・・・確かにどの顔も私ではありますが、どの顔も私ではないような、そんな風に感じたりする今日この頃です。「ライフワークバランスは捨てます」という高市総理に盾突くつもりはさらさらありませんが、年を重ねるにつれて自分自身に戻れる時間の尊さを軽んじるべきではないと思うようになっています。どうなることやらではありますが、今年の抱負は、友人から指摘された「You don't have to do it alone.」を胸に、意識的に素の私に向き合う一年にしたいと思っています。

2026年が幕を開けましたが、法人としては、挑戦すること、乗り越えなければならないこと、多々あります。本年も皆様に見守っていただきながら、教職員一同理念を胸に本学らしく真摯に誠実に取り組んでいく所存です。

国際ことば学院外国語専門学校 校長 褒田 靖子

人の心に残るもの

国際ことば学院日本語学校 校長 野田 敏郎

今年日本政府は外国人の在留に関する規制を強化します。かつて国際化の推進や、外国人観光客の招致のための整備などに投資することについてだれも疑問を持たずにはいました。それがコロッソと態度を変えてしまうところがこの国の国民性をあらわしているのかもしれません。今年創立35年目を迎える日本語学校の職員として一つ言わせていただきたい。留学生や外国にルーツを持つたちは、私たちにとって非常に身近な存在です。だれでも自分にとって身近で大事な人が困っていたらその気持ちに共感してしまうものです。もし自分にとって大事な人が目の前で倒れていたら、そしてその人を自分一人で助けられないしたら、どんな思いがするでしょうか。弱者救済のための制度が整っていたり、あるいは制度がなくても助け合う仲間がいたら、この国やその仲間を誇らしく思うことでしょう。留学生は卒業後、いずれ母国へ帰国します。帰国後、数年たった時、彼らの心の中に残る日本思い出には、「やさしさ」以外、何が残るのでしょうか。

今年もまた…

富士山日本語学校 校長 佐藤 広規

先日、新米教師のころからお世話になっていた先生がお作りになったパン屋さんへ行ったところ、店内に入るなり「佐藤君だよね？」と、店員さんに声をかけられました。なんと、その方は先生の娘さんで、私の高校の同級生だったのでした。さらに、その日の夕方、突然数年ぶりに別の同級生から「今日あのパン屋さん行った？」とメールが。彼女もまた、私が訪れた後、偶然そのお店へ行ったそうです。実はその同級生は高校時代に日本語教師という仕事の存在を教えてくれた人で、私が今この仕事をしている小さなきっかけを作ってくれた人でもありました。不思議なこともあるものだなと思いながら、この二十数年の間の縁というつながりと、時間というつながりをしみじみと感じた一日でした。今年もまた、少しずつつながりを紡ぎ、未来へ向かう大きな帆作っていくたいと思います。

〈英語科成果発表会 English Presentation and Performance〉

12月18日（木）に、この2年間の英語の学習の集大成である「英語科成果発表会」が行われました。各クラス代表12名の学生がプレゼンテーションを行い、審査され、ハイクラスでは、念入りな準備のあったマンサロン トボン ジャスミンさん（B2A）の素晴らしい発表が、第1位に選ばされました。また、プレインタークラスとエレメンタリークラスの学生は、朗読や歌唱などを行いました。自分の体験を基にした、心打たれるお話、笑いがいっぱいの楽しいお話、それぞれの個性の発揮された様々な発表があり、聴いていた学生からも、とてもよかったです、興味深かった等のコメントが多く寄せられました。（田中）



「市政出前講座」

専門学校の初めての試みとして、外国語学科2年生の地域産業論の授業の中で、静岡市の市政出前講座を利用させていただきました。11月17日には静岡市の地場産業と伝統工芸について、竹千筋細工、塗下駄、染物など静岡の名産品を実際に手を触れながら、学びました。12月1日には、清水港の働きについて、同港が面積は小さくも、全国有数のコンテナ港湾であることを知りました。また、12月15日には静岡の農業について、静岡で作られている作物やこの地域の農業の問題点を学びました。また、お茶を香りや味で見分ける「闘茶会」を模したゲームもしました。この出前講座を通して、静岡の様々な特徴を知ることができたこと、特に、実物に触れながら学べたことが非常に良かったとの声が、学生達からありました。（田中）



韓国語スピーチ大会

11月30日に「MIRAIエリアン コミュニティホール七間町」で第14回目となる韓国語スピーチ大会が行われました。自由スピーチ部門で外国語学科2年生の飯田萌々華さんが最優秀賞、1年生の加藤花奈さんが金賞を獲得しました。

参加者は暗誦部門に3名、自由スピーチ部門に7名と例年の約半分でした。ライバルは減ったけれど、上位の2位と3位を取るには簡単なことではありません。

最後の指導後も少し課題があり、家の練習次第でしたので、本番がどうなるかハラハラしていました。1位を逃したのは残念でしたが、二人とも本番が一番良かったです。いつもながら、作文から発音指導までしてくださった鄭淑然先生に感謝です。（小林）



東海大翔洋小学校との交流会

11月18日、東海大翔洋小学校との交流会がありました。参加した学生から素敵なコメントもらつたので、紹介いたします。

- ・Sさん（中国）文化を共有する楽しさを改めて実感しました。国や言語が違っても、お互いを知ろうとする気持ちが交流を豊かにすることを強く感じました。今後もこうした交流機会を大切にしあわせに理解と友好を願っています。
- ・Jさん（メキシコ）小学生の発表を聞き、日本文化の奥深さを再認識しました。一緒に外で遊ぶ時間もあり、言葉の壁を越えて心を通わせる子供たちの素直な力に感銘を受けました。文化の違いを知ることの面白さと、子供たちの学ぶ意欲のすばらしさを改めて感じました。



←小学生からのお礼のお手紙
交流をした留学生の母国語で書いて
いる手紙も多くありました。一生懸
命調べて書いてくれたことが伝わっ
てくる、心のこもったお手紙です。



防災訓練

« 避難確認と防災トイレを学ぶ »

もしもに備えて水や食糧を準備している人は多いかも知れませんが、トイレについて考えたことはあるでしょうか。

11月5日の防災訓練では、簡易トイレを実際に組み立て使い方を学びました。水が使えず家のトイレが使えなくなるとはどういうことを初めて考える学生も多く、実際に体験してみて「簡易トイレを準備しておこうと思った」という声が多くあがりました。また、学校でもし地震や火災が起こったら、どの教室から逃げるのが良いかを考え、実際に逃げる練習も行いました。安全や防災対策について改めて考える一日となりました。（堀場）



「森下ときめき収穫祭に参加」

11月24日に行われた「森下ときめき収穫祭」に出店させていただきました！

本校もブースを出展いたしました。当日は中級クラスの学生たちが授業で学んだ「ふるさと紹介」をテーマに、母国に関するクイズを出題し、多くの来場者の皆様と楽しく交流することができました。学生たちは、教室で学んだ日本語が通じる喜びを感じ、目を輝かせながらやり取りを楽しんでいました。こうした機会をきっかけに、今後も積極的に地域の一員としてかかわりを深めていってくれることを願っています。（渡部）



研修旅行



« 学びと発見の島田バス研修旅行 »

日本語能力試験（JLPT）が終わってすぐの12月10日、全校生徒約200名と島田市をめぐる研修旅行へ行きました。今回の研修旅行のキャッチコピーは「発見！私の知らなかつ静岡県」ということで、「ふじのくに茶の都ミュージアム」「蓬萊橋」「小山城」をめぐって、地元静岡の特産品であるお茶や静岡の歴史に興味を持つもらうことがねらいでした。事前学習で色々調べていた学生もいましたが、お茶の苦みを感じたり、橋の軋む音を怖がりながら恐る恐る歩を進めたり、実際にその場で体験し



たことが学生の学びにつながっていればなによりです。（田中）



食料支援



日本学生支援機構（JASSO）の助成金を活用し、物価高騰により生活面で不安を抱える学生が安心して学業に専念できるよう、野菜や果物などの食料支援を行いました。みなさん、配布された食材でおいしい料理ができましたか。しっかりと食べて健康に気を付け、元気に学校生活を送ってください





Bクラス « 演劇を通して成長した私たち »

私たちBクラスは夏学期に演劇をやりました。まず、5つのチームに分かれ、各チームで話し合って、脚本を選びました。私たちのチームは空港のシーンを選びました。練習のときは教室内で行っていたため、声が互いに重なってしまうし、日本語の発音やイントネーションもまだ十分ではないから大変でした。練習を始めた頃は何かを間違えたら、友達にからかわれるかもしれないと思ったので不安でした。しかし、練習をしている時はいつもと違ってみんな真面目にやっていて、友達も発音などをすごく頑張ったので、感動しました。本番の演劇では少し緊張しましたが、最後まで楽しく演じることができました。演劇を終えたあと、大きな達成感を感じました。この演劇は、二年生の中でも最高の活動だと思います。（インドネシア：ゲリン）



こちらから活動の写真が見られます →



Dクラス « お茶を通して広がった学び »

Dクラスは、どんなグループワークにも熱心に取り組んでいます。12月の研修旅行に行く前に、O-CHAプラザに行きました。その前にグループに分かれて日本茶について様々な情報を収集しましたが、そこでは多くの新しいことを学ぶことができ、全員で日本茶の淹れ方を学んだり、一緒にお茶を点てたりして日本文化に触れることができました。また、学校のノートパソコンを使って、それぞれの国のお茶を使ったプレゼンテーションをしました。これはクラス全員にとって初めての経験でした。研修旅行に行く前にお茶について多くのことを発見し、学んだので、研修旅行をとても楽しむことができました。また、先生が最初から励ましてくれたので、問題があつてもすべての課題に興味を持って取り組むことができました。（バングラデシュ：スンジダ）



Cクラス « 日本茶の入れ方を実践 »

お茶は日本文化の大切な部分なので、お茶の入れ方を学ぶ機会があって嬉しかったです。お茶の種類や入れ方、道具の使い方などを学びました。何回もお茶を入れると味や色の変化を体験できるのも楽しかったです。スリランカもお茶を生産している国として、お茶は大切です。スリランカで飲むお茶とは入れ方や味に違いがありますが、お茶への愛は日本とスリランカの共通点だと思います。例えば、日常生活でお茶を飲みながらお菓子を楽しんだり、家にゲストが来たときにお茶を出すことなどです。でも、ゆっくりと優雅にお茶を入れる日本の文化は、とても芸術的で癒されると私は思います。日本とスリランカのお茶には違いがありますが、共通点も多くあることを学び興味深かったです。（スリランカ：リヒニ）



Fクラス « 楽しかった“かるた大会” »

かるたをやってみて、カードを探すのは難しかったですが、クラスの友だちと一緒に遊べてとても楽しかったです。ネパールにも、かるたのようなカードゲームがあります。「ティーン・パッテ」や「ラミー」など、絵や数字を使ったカードゲームです。家族や友だちと集まったときに、楽しく遊びます。授業では、ことわざかるたをやりました。私の好きな日本のことわざは、「七転び八起き」です。何度も失敗しても、あきらめずに立ち上がることが大切だという意味で、とても良いことわざだと思います。ネパールのことわざを1つ教えます。「ビスター ガレ ラムロ フンチャ」です。意味は、「あわてず、ゆっくりやれば、うまくいく」ということです。

（ネパール：ラクシュミ）





12月12日（金）富士市立体育館にて思いっきり楽しむ！をコンセプトに運動会を行いました。今回は、学生有志の「運動会リーダーズ」が約2ヶ月前からミーティングを重ね、当日のゲーム説明やデモンストレーションなど、活躍してくれました。種目は、ボール爆弾、玉運びリレー、ディクテーションカルタ、綱引き。クラスだけではなく、1・2年生合同チームにわかつて行う種目もありました。ディクテーションカルタでは、1年生はひらがな、2年生はカタカナ。学生が一人ずつ文字カードを持ち、ステージに立つと、「～じゃない！ 小さい『つ』！」 「のばす音！」などクラスをこえて言葉が飛びあい、大盛り上がりでした。最後の綱引きでは、1・2年生合同のチーム戦。開始の合図とともに男子学生は、相手チーム側から自分のチーム側へ猛ダッシュ！男子学生が来るまでの間、女子学生だけで綱引きです。やっぱり最後は、本気で！力を出し切り、ヘトヘトになりました。

佐藤校長から、「今日、楽しんだ人ー？」という問い合わせに学生たちからは、「はーい！」と元気で大きな返事が。「何事も気持ち次第。普段の生活の中でも「楽しむ心」を忘れずに。」という言葉で運動会がおわりました。日本に来てから、なかなか思いっきりスポーツをする機会がない学生達。JLPTも終わり、清々しい汗をかいたのではないでしょうか。



11月13日、地震を想定した防災訓練を行いました。訓練では、地震発生時に安全な場所へ移動し、机の下にもぐって頭を守るなど、基本的な行動を確認しました。その後、避難経路に危険な場所がないかを確かめながら、全員で避難場所まで移動しました。避難場所では、実際に消火器を使った初期消火の体験も行い、学生たちは真剣な表情で取り組んでいました。近年、日本では地震が多く発生しており、今回の訓練は、学生が日本で安心して生活していくために、防災への意識を高めるよい機会となりました。これからも、日頃から災害への備えを大切にていきたいと思います。

みんなの力で一年の感謝を込めてピカピカに ♡

授業最終日の12月19日、今年もお世話になった校舎へ感謝の気持ちを込めて、全校で大掃除を行いました。

学生たちは教室や廊下、階段などを分担し、隅々まで丁寧に清掃。雑巾をしぼって窓を磨いたり、普段は手の届かない場所も協力しながら楽しそうに取り組む姿が見られました。ワイワイとにぎやかな雰囲気の中、校舎はみるみるうちに明るく清潔に。新年も、みんなで綺麗にしたこの校舎で、気持ちよく学びをスタートしてほしいものです。



学校法人 国際ことば学院 お知らせ

2025年度 卒業式のご案内

富士山日本語学校

- ◆卒業式 3月7日（土）
 - ・時間：10時30分～12時15分（開場：10：15）
 - ・会場：ロゼシアター 中ホール
- ◆懇親会
 - ・時間：13時00分～15時00分（開場：12：45）
 - ・会場：ロゼシアター レセプションホール
 - <有料> お一人様 3000円

（※お時間につきましては多少前後する場合がございます。）



馬にまつわるパワースポット 「静岡浅間神社」

2026年が始まりました！今年の干支は「午年」で、特に60年に一度の「丙午」の年になります。この年は勢いのある年とされ、情熱やエネルギーが高まると考えられています。そんな「午年」にちなんで馬にまつわるスポットを紹介します。

静岡浅間神社の総門をくぐった右手側には、神厩舎（しんきゅうしゃ）という建物の中に、「叶え馬」と呼ばれる神馬が祀られています。

徳川家康が奉納した馬を模した木彫りの白い神馬で、3代将軍家光が左甚五郎という日光東照宮の眠り猫など多くの彫刻を手掛けた職人に作らせました。

この神馬に願えば、どんな願い事でもかなうと言われ、「叶え馬」と呼ばれるようになりました。動き出しそうなくらいリアルな木馬で、話しかけたら本当に聞いてくれそうな優しいお顔をしています。



また、馬が喜ぶことまちがいなし!!な「にんじん」🥕が描かれたかわいい絵馬があるので、願い事を願掛けすることもできます。

広い境内には3つの本社と4つの境内社が点在していて、神様によってご利益が違うので、自分の祈願にあわせてお社を回ってみてもいいですね。



＜編集後記＞編集長：山田/ 編集：杉山(亜)、青山、杉山(み)、渡邊

振り返ると一年ってあっという間ですね。みなさんは毎年、新年の抱負など決めているのでしょうか。私は「気にし過ぎない」というのが今年の目標です。周りを見ながらも前を向き馬のように駆け抜けていきたいです。みなさまにとって良い年になりますように！本年もどうぞよろしくお願ひいたします。

KOKUSAI KOTOBA GAKUIN GROUP
学校法人 国際ことば学院グループ

COLLEGE OF FOREIGN LANGUAGES
国際ことば学院外国語専門学校

〒422-8062 静岡県静岡市駿河区稻川13-9-4 TEL:054-270-7091 / FAX:054-286-7091

WEBSITE:<http://sp.kotoba.ac.jp>

E-MAIL:ask@kotoba.ac.jp

JAPANESE LANGUAGE SCHOOL
国際ことば学院日本語学校

〒422-8076 静岡県静岡市駿河区八幡3-2-28 TEL:054-284-8383 / FAX:054-284-8338

WEBSITE:<http://jp.kotoba.ac.jp>

E-MAIL:info@kotoba.ac.jp

MT.FUJI JAPANESE LANGUAGE SCHOOL
富士山日本語学校

〒416-0944 静岡県富士市横割1-6-16 TEL:0545-30-8680 / FAX:0545-30-9558

WEBSITE:<http://fujisan.kotoba.ac.jp>

E-MAIL:fujisan@kotoba.ac.jp